

## 起倒流の史的研究

## —起倒流伝書（佐賀県立図書館蔵）について—

田中洋平

## A historic study about kitou-ryu.

TANAKA Yohei

嘉納治五郎が明治15年に講道館柔道を創始する際、その基礎となった柔術に起倒流がある。この起倒流は、その歴史が古く、その成立については未だ不明な点が多い。得に寺田正重を祖とする起倒流と茨木専斎を祖とする起倒流乱の関係は明確ではない。その要因の一つに史料の不足があげられる。以前に較べると、かなりの史料が見付かっているが、まだ十分とは言いがたい。

そこで今回は筆者が佐賀県立図書館において調査した起倒流乱の伝書の概要を紹介し、今後の研究に資することを目的とする。

今回、佐賀県立図書館に所蔵されていた起倒流乱の伝書は以下の3つである。これらの史料については老松信一氏、渡辺一郎氏によって若干の紹介はされている<sup>1)</sup>が、その内容についてはこれまで触れられていない。

- ・起倒流乱得心之目録
- ・起倒流乱授業目録
- ・起倒流乱組討目録

## 〈起倒流乱得心之目録〉

本目録と同名の史料は鈴鹿家文書に見られる。「居合抜心持之事」からはじまり、心法論を中心について述べられている。寛永16年(1639)に茨木俊房より大塚勝右衛門に伝授されたものであるが、その後、代を重ね伝書の最後は寛保元年(1741)相良求馬から鍋嶋隼人に伝授されている。

(図1)(図2)

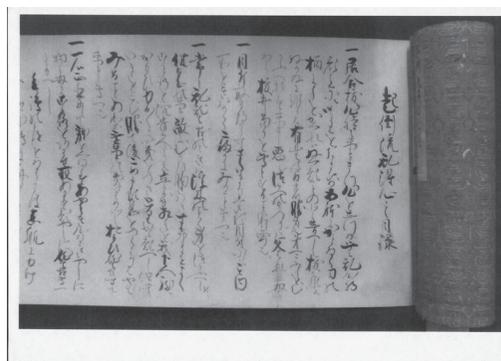


図1

## 〈起倒流乱授業目録〉

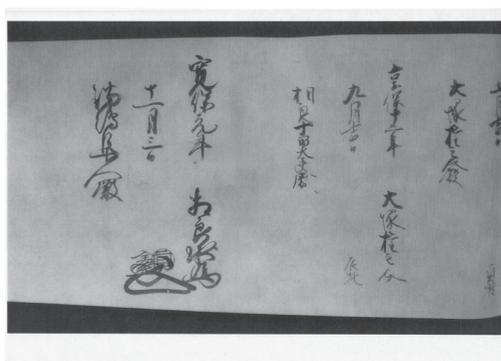


図2

本目録と同名の史料は他には見られない。内容はまず、漢文で記された「起倒流目録序」と「起倒流乱授業目録」の二部構成となっている。

起倒流目録序は茨木又左衛門尉俊房謹序となり、寛永壬午(寛永19年=1642)に記されることとなっている。

起倒流乱授業目録は主に技の名称が記されている。記されているものは以下の通り。なお、伝授の系統については前述の「起倒流得心之目録」と同様である。

- 一 體
- 一 體車
- 一 請
- 一 左右
- 一 前後

#### 奥五箇

- 一 行連
- 一 行違
- 一 行當
- 一 身碎
- 一 谷汙

#### 外物

- 取合
- 引落
- 後詰
- 鐺責
- 嵐
- 風車
- 楯合
- 拔身
- 生捕繩
- 坂
- 橋
- 水中
- 舟
- 馬上
- (図3)

となっている。

#### 〈起倒流乱組討之目録〉

本目録は「起倒流乱授業目録」と同様の技名称が並び、その後、習・奥習・極意まで記されている。

#### 表五箇

- 一 體
- 一 體車
- 一 請

- 一 左右
- 一 前後

#### 奥五箇

- 一 行連
- 一 行●
- 一 ●當
- 一 身碎
- 一 谷汙

#### 外物

- 一 取合
- 一 引落
- 一 後詰
- 一 鐺責
- 一 嵐
- 一 風車
- 一 ●合
- 一 拔身
- 一 生捕繩
- 一 坂 上下
- 一 橋
- 一 水中 深淺
- 一 舟 荒波 横船 連船 向船 乘違
- 一 馬上 追掛 向馬 乘連 乘違 横馬

#### 習

- 一 目付
- 一 遠山目付
- 一 ●積
- 一 立居身立
- 一 身連合
- 一 ●心

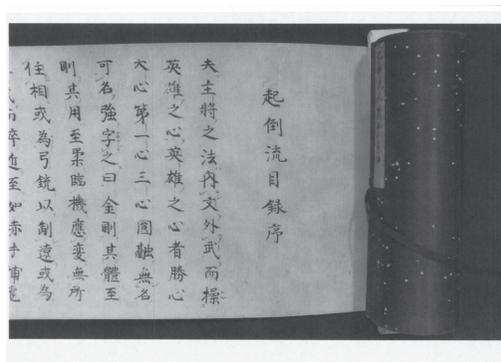


図3

- 一 縁
  - 一 残
  - 一 請別別請
  - 一 不意
  - 一 氣轉
  - 一 柔剛強弱
  - 一 四拍子
  - 一 先
  - 一 ●●
  - 一 死活
  - 一 病氣
  - 一 武者切所
  - 奥習
  - 一 心備
  - 一 丸屋
  - 一 水月
  - 一
  - 極意
  - 一 大突
  - 一 華性
  - 一 陰陽
  - 一 玉緒
- (図4)



図4

以上、佐賀県立図書館所蔵の起倒流乱に関する史料の概要を述べた。他の起倒流乱・起倒流の伝書との差異についてはこれからの課題となるが、本資料により、起倒流乱が江戸末期まで受け継がれてきたことが明確となった。

<sup>i</sup> 渡辺一郎「武道の傳書」四回，雑誌『武道』，1978.  
老松信一『日本武道大系』6巻，同朋社，1982.